

## 令和4年度 入学式 式 辞

暖かな日差しと風に包まれ、爽やかに新たな生活のスタートを告げる今日の良き日に、ご来賓として本校PTA会長沼田康秀様のご臨席、そして新入生の保護者の皆様のご列席のもと、兵庫県立社高等学校第77回入学式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり誠に嬉しく存じます。本校を代表し深く感謝申し上げます。

先ほど入学許可をされた第77回生237名の皆さん。ご入学おめでとうございます。職員一同、心より歓迎いたします。そして保護者の皆様、お子様のご入学誠にありがとうございます。これまでお子様を育ててこられました皆様のご尽力に心より敬意を表しますとともに、私たち教職員は一人一人を社会人として恥ずかしくないよう育てていかねばならない責任の重さに身の引き締まる思いでございます。どうか本校の教育活動にご理解並びにご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの影響が出て早2年が過ぎました。皆さんの中学校生活のほとんどが随分と制限のかかったものになったのではないのでしょうか。そして、今は感染防止からの休業やリモート授業から学校のあり方が問われるようにもなってきたと思います。皆さんは学校に対して何を望み、何を期待していますか。その期待に応えるために私たち教員ができる事は皆さんの声に耳を傾け、皆さんの将来と一緒に考え、皆さん一人ひとりの力を伸ばす事だと思っています。そのためには皆さん一人ひとりがしっかりと考えて行動できるようになることが大事です。「誰かがやってくれる」ではなく自分でやりましょう。「どうせできないから」ではなくとにかくやってみましょう。一步を踏み出すことが大切です。高校入学という節目はそのチャンスです。学習は勿論、部活動や趣味といった自らの生活を豊かにする活動にも積極的に取り組んでください。

また、この4月には法律が変わり、成年年齢が18歳に引き下げられ、高校3年途中で成人と認められるようになりました。選挙権取得年齢はすでに18歳に引き下げられていますが、多くのことを自分の判断でできるようになります。このことは裏を返せば、責任がとて大きくなるということです。その責任を果たすために必要な力を身につけておかねばなりません。そのためにも近くのものを見る目は勿論、全体を見通せる目、社会の流れをつかむ目などいろいろな視点で物事を見て行くことが大切になります。そしてそのような目はすぐにもてるものではなく、自分で意識して、考えて、習慣的にそのようにしていくことが重要です。皆さんがそういった目を持ち、しっかりと考えて行動できるように私たち教員はサポートしていきます。保護者の皆様とともに温かい目で見守りつつ、成人としての判断ができるよう育てていきたいと思えます。

そんな皆さんに、高校生活を送る上で意識してほしい言葉を伝えます。一つ目は失敗することに関しての言葉です。サッカー界で有名なヨハンクライフ氏が「才能のある若手にこそ挫折を経験させなければならない。挫折はその選手を成長させる最大の良薬だからである」と言っています。また、京セラの創始者稲盛和夫さんは「世の中に失敗というものはない、チャレンジしているうちは失敗はない、諦めたときに失敗である」と言っています。失敗を恐れるあまり、考えすぎて動かないことこそが失敗であるということと失敗を失敗と思わずチャレンジし続けることで充実する時間を持ち、前を向いていける、また成長のための失敗は必要であるということを経営者、監督、選手が伝えてくれています。新しい生活に溶け込んで行くには勇気もいります。自分一人で解決できないことも多いからこそ仲間も必要です。高校ではそういった仲間作りも是非やっていただきたいし、多くのことにチャレンジしてほしいと思えます。そしてそのチャレンジを続けることが大

切になってきます。挫折や失敗のない人はいません。成功体験より失敗体験の方が多いのですが、その分、成功したときに大きな喜びに変わります。やってきたことに自信を持つためには心の粘りが必要です。その粘りを出していくために私たち教員だけでなく、先輩である上級生がいます。皆さんの周りにいる人をうまく活用してください。

二つ目は、「自分に正直に自分にあったことを受け入れる」ということです。「辛い」という漢字は「立」に「十」と書きます。あと一本横棒が入れば「幸せ」という漢字になります。自分にとって良いと思われることと悪いと思われることが、実は非常に近いものであって、背中合わせになっていたり、あと一息でその状況が変わったりするところにあるのかもしれませんが、嫌だと思ふことも実はその経験が活かされて良い状況に変わっていくこともありますし、嫌だと思ふことを受け入れずにいると自分におきるいろいろなことを肯定的に受け入れられず、気持ちが前向きにならないことがあります。自分に起きた出来事を受け入れて、何か工夫を一つ加えるだけで物の見方も変わり、好転するきっかけになることもあります。「自分に正直に、自分におきている物事をしっかりと受け入れる」ことを自分自身の振り返りの材料として学校生活を送ってください。

最後に職員一同、皆さんの成長を心から願っています。そして、皆さんをしっかりとサポートしていきます。そのことを保護者の皆様にもお約束し、皆さんの高校生活の充実と活躍を期待しまして式辞とさせていただきます。

令和4年4月8日  
兵庫県立社高等学校  
校長 若浦直樹